

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 助教

氏名 香川成人

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

生命・環境科学部の学科において以下の微生物学関連の必修科目を担当している。微生物学総論、微生物学実習、臨床微生物実習等を通じ、学生に微生物の基本から臨床応用までを教えている。特に、臨床検査技術学科では国家試験に向けて細菌、真菌、ウイルスの基礎知識の習得と検査技術の向上を目指し、学生が臨床検査技師としての必要なスキルと知識を身につけられるよう指導している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
キャリア演習	臨床検査技術学科	必修	1	85
微生物学実習	臨床検査技術学科	必修	2	89
病原微生物学実習	環境科学科	必修	3	73
臨床微生物学実習	臨床検査技術学科	必修	3	105
環境・病原微生物学	環境科学科	必修	3	74
総合臨床検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	105
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	99
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	104

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

私は学生が社会で即戦力となる臨床検査技師を目指す中で、基本的な微生物学の知識だけでなく、臨床現場で直面する問題を解決できる能力を育成することを重視している。このために、授業内での講義はもちろん、実習においては実際の病原微生物の同定作業や菌種特定の方法について深く理解できる教育を心掛けている。さらに、臨床検査技師として活躍するためには、コミュニケーション能力とチームワークが重要であると考え、これらのスキルの向上にも力を入れている。このような教育を通じて、学生は知識を習得するだけでなく、臨床検査技師としての責任感と倫理観を持ち合わせ、多様な臨床現場での活躍を目指す人材へと成長することを期待している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

授業では、微生物学の基本から細菌の培養方法、病原微生物の同定技術に至るまで、臨床検査技師として実際に必要とされるスキルに焦点を当てている。しかし、微生物の菌名など覚えにくい内容も多数存在する。そのため、講義資料ではできるだけ図表を取り入れ、視覚的に理解しやすいように工夫している。さらに、学生が授業内容をより深く理解できるように、ICTを活用し、ビデオ教材やオンラインクイズを用いることで学習内容を充実させている。また、実習では、実際に病原体を扱い、学生自身が菌種を同定する経験を通じて、実践的な応用能力の向上を図っている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

AzaMoodleに載せた授業資料で事前に予習をしてもらうようにしている。

(2) ICTの教育活用

有

動画やパワーポイントを用いて、教育するよう努めている。毎回、授業の際は學理もしくはAzaMoodleに資料に掲載し、定期試験などに活用してもらう。また、小テストをAzaMoodle内で実施し、授業内容の理解を深めている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

教員の話を中心に聞くだけでなく、学生が能動的に参加する時間を設けるために、講義資料を穴埋め形式にし、学生に答えさせたり、穴埋め作業を行わせたりしている。

(2) 学生の理解度の把握

A

毎回、小テストを実施し、学生の理解度を確認している。また、次回の講義では前回の小テストの解説を行い、さらに学生に再度質問することで、知識が定着しているかを確認している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

講義資料は、授業日の数日前までにAzaMoodleで共有し、学生が事前に学習できるよう穴埋め用の資料にしている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義中および講義後に適宜、講義内容に関する質問に対応している。さらに、時間外でもメールを通じて質問に対応している。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義や実習時に、質問された内容に対する解答を求めるだけでなく、「なぜそうなのか」を考えさせ、その理由を答えさせたりしている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

国家試験対策として、最新年度の国家試験問題にも対応できるよう、学生にとって必須となる知識項目を中心に問題や資料を作成し、学生の知識向上に努めた。また、学生からの個別質問には迅速に対応し、納得できるまで丁寧に解説した。さらに補講も実施し、学生の理解の深化および知識の定着に役立てた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

学生から好評であったパワーポイント等の資料については、内容の見直しを行うとともに、理解促進を目的とした穴埋め形式を継続して活用した。また、Azamoodleで実施した小テストについて、結果や解答を公開してほしいという学生からの要望があったため、小テスト実施後に結果および解答を公開し、復習や自主学習に役立てられるよう配慮した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

資料が簡潔にまとめられていて分かりやすかった、見やすかったなどの授業評価があった。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

今年度の学生アンケートを参考に、学生が難しいと感じる部分や改善を望む点を再度把握し、これらのフィードバックを基に、次年度の授業内容や方法を改善する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義内容の理解を深めるため、資料の重要部分を空欄にし、学生が穴埋めを行えるようにしている。また、講義中に教科書の重要箇所へ直接印をつけさせることで、学習の定着を促している。さらに、国家試験対策として、微生物に関する資料を、図や表を活用しながら重要なポイントが分かりやすくまとまるように作成している。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生から資料に関して、穴埋め式の形でよかった、資料がわかりやすかったなど肯定的なフィードバックを受けとった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

大学内で開催されるFD研修会には積極的に参加している。参加できない場合は、後日、録画を視聴して学んでいる。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

社会で即戦力となる優秀な人材を育てること、そして国家資格合格率を100%に近づけることを目指していく。その過程において学生に対して威圧感を与えないよう、笑顔を心掛けるなど、温かみのある接し方を意識し相談しやすい環境を提供していく。また、定期的に自己の教育手法を見直し、他の教員の成功事例を積極的に取り入れることで教育の質を向上させていく。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス、小テスト、教材（教科書、パワーポイント資料）、試験問題、FDプログラムなどへの参加記録